

地域応援団本部発行

原野谷学園だより

21

令和元年7月20日

原野谷学園事務局（原谷小）

TEL 0537-26-0005

学校図書の整備ありがとう（学校図書館ボランティア活動）

原野谷中学校では毎月一回図書館で学校司書と図書館ボランティアさんが図書の整備活動を行っています。学校司書は本年度、柴田佳代子先生に代わりました。

子どもにとって読書活動はとても重要な学習の一つです。毎年多くの新刊図書が入ります。図書の仕事は登録やブックカバー整備など多岐にわたっています。ですから図書を整備する仕事はとても大切です。学校側からは図書館活動の奉仕に来てくださる図書館ボランティアさんには大変感謝をしています。

又、原野谷学園の地域の皆様の中で図書館ボランティア活動参加に関心をもたれている方があれば、何人でもありがたいです。

ぜひ、その際は原野谷中の森下教頭先生にご一報をください。



原野谷中学校図書館での図書の整備活動風景

令和元年度の図書館ボランティアさん

山口敬子さん（細谷） 青木和子さん（西山）
入手和子さん（本郷西） 小田亜紀子さん（寺島）

少しでも地域の学校に貢献できれば

原野谷中学校のボランティアをさせていただくようになって、4年目となりました。手にとって読みやすくいつまでもきれいに保存できるように、透明のカバーを貼っていく作業をします。最初は手順を間違えたりしましたが、きれいに仕上がったときは密かに満足しています。先生方から「本当に助かっています」と言っただき、嬉しく思います。

この活動をすることで、少しでも地域の学校に貢献できるのならという思いで参加しております。

（原野谷中学校図書館ボランティア）入手和子

生徒が楽しく気持ちよく読めるように

今年度から、図書館ボランティア活動に参加させていただいております。本が痛まないよう透明ファイルを取り付けたり、剥がれてしまっている箇所の修正、本の整頓等をこれまでやらせていただきました。自分自身、中学生がどんな本を好むのか、とても関心深くなりました。生徒さんが楽しく、気持ちよく、そして心を落ち着かせて読めるよう、今後も取り組んでいきたいと思っております。

（原野谷中学校図書館ボランティア）小田亜紀子

ご家庭に眠る本の提供をお願いできませんか。



ご家庭に眠る本があれば原野谷学園に提供していただませんか。絵本でも小説でも1冊でも2冊でも構いません。原野谷中の事務室にお持ちくだされば、学園内の小中学校に振り分けて学校図書館にて活用します。心の栄養である本を1冊でも多く読めるよう、ぜひご協力をお願いします。ただし、選書に漏れた本はリサイクルに回りますのでご了承ください。

（学校司書 柴田佳代子）



読書力向上を目指す原野谷学園の読書活動 子どもたちに良い読書環境を！

原野谷学園では「願う子ども像」の姿として「親子とともに読書を親しむことができる」を柱の一つにあげています。原野谷学園だより10号で紹介しました家庭力強化委員会の座談会の中で「読書」についての場面がありました。その中で親が本を読む事を好きだという読書環境は子どもにとっても良い影響を与える事が大きな話題となりました。



移動図書館貸出風景（原谷小）



保護者の読み聞かせ（原田小）



保護者の読み聞かせ（あんり園）



図書情報委員会の掲示活動
（原野谷中）

数学力をつける原野谷中「数学塾」の取り組み 5名のボランティア講師陣の熱い思い



原野谷中学校では8年ほど前から定期テスト前に「数学塾」を行っています。少人数で個人の学習に寄り添い、学力を伸ばすことをねらいとしています。

普段の授業中では聞けないことを聞いたり、じっくり取り組みたい問題に取り組んだりしています。そして「数学塾」にかかせないのは原野谷学園ボランティア講師の皆さんです。第一回目の数学塾は5名のボランティア講師に御世話になりました。事前に問題を全て解き、熱心に粘り強く生徒に教えて下さいます。「何としても分かってもらいたい」という講師の熱い思いが生徒に伝わります。

教える側も教わる側も数学を通して熱い思いが流れます。（原野谷中学校教頭 森下華代）



中学生に数学を教える。不安と戸惑いを感じている中、学校から数学の問題用紙が届きました。B4用紙4ページ、単項式、同類項、因数分解等45年ぶりに目にする語句。懐かしく思いながらさっそく腕試し。当日は、中学3年生を担当。予想以上によく理解しており、ほんの少しサポートするだけで済みました。分かりやすく教える難しさを痛感しました。今回は、中学生より私自身が大変勉強になりました。次回は、今回の反省をもとにより分かりやすく説明できるよう努力していきます。（数学塾ボランティア講師 青木 一）

地域応援団本部発行

原野谷学園だより

22

令和元年10月15日

原野谷学園事務局（原谷小）

TEL 0537-26-0005

令和元年スタートの年

のぼりばた

原野谷学園念願の幟旗が完成



幟旗作成の関係者一同

デザイン応募が42点

新しき令和になった年に原野谷学園では念願の幟旗が完成しました。園・学校や地域関係者にデザイン応募をしたところ42点もの作品が本部に提出されました。2回の審査会を通してデザイン採用賞に石淵春菜先生（原野谷中養護教諭）が決定しました。

幟旗の文字は学園の願う子ども像「夢を抱きりりしく歩む 原野谷っ子」です。地域や園・学校の行事等の時に学園のシンボルとしてこの幟旗が掲げられます。

た。川のデザインは美術部の生徒が考えてくれました。さくら色には二つの意味があります。春に見られる桜並木の色と、原野谷地区の方の温かさを表現しました。描いている途中で、川が子どもたち、さくら色が地域の方にも見えてきて、いつまでも人と人との結びつきが強く、温かい土地柄が続いてほしいなという思いも込めました。



デザイン作成者・石淵春菜先生（原野谷中）の紹介文

原野谷地区の真ん中を穏やかに流れる原野谷川の周りをさくら色で囲みまし

のぼりばた
原野谷学園幟旗は70本作成

園・小学校・中学校に各6本	24本
各地区学習センターに各5本	10本
各地区の自治会に各2本	34本
市教委	2本

(活用方法)

- ①園・小学校・中学校では地域や保護者が関わる行事等で幟旗を活用します。
- ②地域では子どもが関わる防災訓練や地域行事等で幟旗を活用します。

学園の幟旗



のぼり旗の文字は学園の願い

のぼり旗が完成しました。この旗には「夢を抱き、りりしく歩む、原野谷っ子」と書かれています。この言葉は学園の願いであります。子どもは地域の宝であり、自然や人との関わりの中で成長していきます。お父さんお母さんにはかないませんが、時には厳しく、又優しく関わって成長する姿を見届けていきたいものです。こののぼり旗は子どもの関わる行事などの場面で活用していきます。

(原野谷学園会長 山崎 潔)

学習センターに幟旗1本を常時展示

原野谷学園の幟旗の作成では原野谷中美術部の生徒さん達の応募作品を多数見ました。どれも大変よく出来ていて迷いました。大高山と原野谷川を取り込んだ作品を推しました。最終的に原野谷川の作品に決定しました。幟旗ができあがってきて、爽やかな印象の旗になり大変良い旗が出来ました。地域では地区の行事やイベントの時に出示していきます。原野学習センターのロビーに1本の旗を常時展示して地区の皆さんに見てもらいます。

(原野谷学園副会長 鈴木紳一郎)

**原谷小6年生に「総合」の授業で地域防災の実態を紹介
細谷区防災委員長の山本知久氏**

9月19日に原谷小学校の6年生の「総合学習」の授業で細谷地区の防災委員長を務めている山本知久氏が地域防災の実態と具体的な活動の様子を熱く語ってくれました。具体的に消火活動で使う「掛け矢」や「鳶」といった道具を持参してその使い方を身振り手振りのジェスチャーを交えて教えてくれました。

細谷地区では毎月一回可搬ポンプを使っての地域防災の取組みの様子にどの子も真剣な表情で聞き入っていました。山本さんの授業が進む中で子ども達は次第に身を乗り出して聞き入っていました。

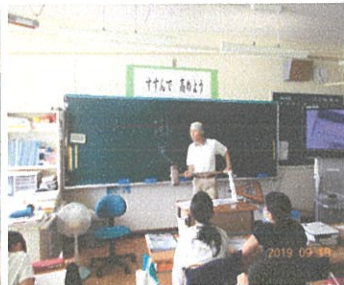


表情豊かな山本知久講師の授業風景

終わりの場面では「リヤカーってどんなもの」とか「ハンマーって」「ハンドマイクって」「投光器って」と次々と防災に使う道具の事について子ども達からたくさんの質問がでました。



とび
鳶を使って



かや
掛け矢を使って

9月19日に原谷小学校の6年生を対象とした防災教育の講師を仰せつかりました。6年生の担任の小野先生から「今日は原谷地区でも防災のことについてとても詳しい山本さんに教えてもらいます」と紹介され大変恐縮してしまいました。細谷地区の防災訓練と防災倉庫の装備品について説明をしました。児童の皆さんが「リヤカーって何ですか」などとたくさん質問をしてくれて楽しく授業を終えることが出来ました。

(細谷地区副区長・防災委員長 山本知久)

地域応援団本部発行

原野谷学園だより

23

令和2年1月15日

原野谷学園事務局（原谷小）

TEL 0537-26-0005

特集 原野谷学園「小中一貫教育研究発表会」(11月1日)

6年生「総合」の公開研究授業 授業設定課題

ある平日の午後、突然の地震発生！

・・・その時、1人である小学6年生はどのような行動を取るのか。

令和元年11月1日に原野谷中学校にて、平成29年度から令和元年度までの3ヶ年の掛川市教育委員会指定の原野谷学園「小中一貫教育研究会」が行われました。研究内容は原野谷学園内の9ヶ年間の見通しの中で、子どもたちの発達段階に応じた指導の在り方の研究でした。

そのために、異校種の教員が互いに交流を深め、研修を積み、教員としての資質・能力を高めることだとして研究を進めてきました。



原田小・原谷小6年合同授業風景（原野谷中図書室）



子どもたちの質問に答える山崎潔さん



子どもたちの質問に答える三浦勝司さん

ここでは、原田小・原谷小の合同授業の様子を紹介します。授業では地域の防災担当者（原田地区の浦勝司さん・原谷地区の山崎潔さん）がアドバイザーとして子どもたちの様々な質問や疑問に答えて、防災おける問題の課題解決をしていました。



三浦勝司さん

原田小・原谷小合同の6年生の防災教室に参加しました。授業の内容は平日の午後に突然地震が発生したという想定で、家に一人であるあなたはその時にどのような行動を取りますかという課題で話し合いが始まりました。多くの意見が出ました。①家の外で親が来るまで待つ ②家の安全を確認して避難所に行く ③玄関に貼り紙をして避難所に行く ④友達等に連絡を取って助け合う 等々一生懸命に考えている姿勢に感動しました。授業を終えて、地域住民ももっと深く防災を考える必要があると思いました。

防災教育で学んだこと・・・児童「振り返りカード」より

(敬称略)

家の人と一緒に防災のことを話していきたいです。その時には、災害用伝言ダイヤル171を掛けてみたいです。

今、家で犬を飼うかどうか少し話しているところですが、よく考えて決めていきたいです。

(原田小6年 小田朔矢)

地震などの災害があった時のために、家族とどうすればいいのか、どこに避難すればいいのかなどをしっかりと話し合っておきたいです。それにペットを飼っているの、自分たちだけの準備だけではなく、ペットのことも考えて準備しておきたいと思います。

(原谷小6年 西尾梓)

全体会オープニングで小中合同合唱「情熱大陸」を熱唱

原野谷学園では小中一貫教育の研究手法の具体的な手立てを進めていく上の一つに「乗り入れ授業の実施」があります。これは、小中兼務発令を受けた中学校教員が、小学校外国語活動を担当する。また、音楽科、理科、美術科の教員が小学校の授業を支援するとありました。

今回の研究会全体会のオープニングの場で小中合同で「情熱大陸」をいきいきと合唱しました。具体的には中学校音楽科教員が中心となり小中学校の担任教師との連携により作り上げたものでした。

以下の文は指導に携わった原野谷中音楽担当の森下教頭先生の感想です。



研究発表全体会のオープニングで小中合同合唱を披露

キラリ！ふれあいコンサートの1週間後に、小学4年生と中学3年生が合同で音楽の授業をすることが決まりました。関係の先生方で相談の結果、研究発表全体会のオープニングで合同合唱を披露することになりました。大きな年齢差がある中で、互いのよさを絡ませて取り組める曲として「情熱大陸」を選曲しました。小学生には、合唱練習のはじめから私が指導に入り、目指す声を児童と共有しました。小学生はスポンジのようにぐんぐんと指導を吸収し、素敵な歌声になっていきました。中学生は小学生の歌声に刺激され、楽しく取り組んで、憧れの存在になろうという気持ちが生まれてきました。



小・中学校の担任の先生の後押しもあり、発表会当日には原野谷学園の熱い情熱を合唱曲「情熱大陸」で披露できました。子どもたちが生き生きと表現できたことが、小中合同合唱の大きな成果でした。(原野谷中教頭 森下華代)

原谷小の大空に^{たこ}風があがったよ！ 地域の皆さんありがとう。

12月24日(火)に、今年も地域の人達の支援指導者8人による1年生35人の生活科授業「昔の遊び＝^{たこ}風揚げ」が原谷小学校グラウンドで行われました。元気な1年生なのでグラウンドいっぱい

走り回って上手に風をあげていました。子ども達は走ったり糸を引いたりすると風があがるコツを素早くつかんでいました。最後に担任の石川先生からは「もっと風があると風はあがりやすいよ」と教えてくれていました。

